

# 南風 2022

あしたは もっとたくく  
～ 笑顔と本でいっぱい学校～

2022南中学校通信

号 外

令和4年9月2日

校長 齋藤 孝太郎

## 全国学力・学習状況調査からみえてきたもの

今年度4月、全国学力・学習状況調査として、3年生を対象に「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施しました。県内の平均正答率は、数学については全国平均を上回ったものの、国語と理科は全国平均を下回りました。さて、その集計結果からみられる本校生徒の特徴について以下のように報告します。個々の学習状況やそれぞれの教科・領域の理解度についてご確認いただき、今後の学習や生活に活かしてください。

### （1）本校の平均正解率

国語 全国平均正答率と比較し「ほぼ同じ」という結果になりました。  
数学 全国平均正答率と比較し「上回る」という結果になりました。  
理科 全国平均正答率と比較し「やや下回る」という結果になりました。



### （2）「教科に関する調査」から見られる本校の特徴

- ① 概ね全国の平均正答率と数値は変わらない。
- ② 無回答（解答していない空白状態）率が極めて低い。
- ③ 著しく正答率が高い・低い領域はない



○少人数授業や小グループ活動を活用しながら、生徒一人ひとりが思考し問題解決を図る場面を設定した授業を重視していることが、応用的な力が問われる問題の正答率の高さにつながっていると考えます。また、無回答（解答していない空白状態）率が、全国平均と比較して極めて低い状態となっています。あきらめず最後まで取り組むことができる生徒が多いことは、本校の強みです。3年生には、このことの大切さを自覚し、これから先も持ち続けることができるように働きかけていきます。また、1，2年生には本校の良き伝統として引き継げるようにしていきたいと考えます。

○【国語科：学習状況】知識及び技能に関して「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を上回りましたが、「我が国の言語文化に関する事項」は下回り、「情報の扱い方に関する事項」は同等となりました。思考力・判断力・表現力に関して「読むこと」は全国平均を上回りました。朝読など、読書活動の推進を行った結果であると考えます。しかし、「書くこと」は全国平均と同等でしたが、「話すこと・聞くこと」は下回るという結果でした。コロナ禍における小グループ活動の制限の影響もあるようです。問題別の集計結果から、全14問中、全国平均正答率を上回った問いは7問あり、「表現の技法について理解する」の問いにおいて、特に高い正答率となりました。逆に、下回った問い5問の中で、「論理の展開などに注意して聞く」「聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する」の問いの正答率が低く、対話の中で注意して聞いたり、表現を工夫したりする機会が少なかったことが「話すこと・聞くこと」の結果にも現れています。今後、小グループ活動を中心に、意見交流の機会をさらに増やしていきたいと考えます。

○【数学科：学習状況】「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の4領域全てで、全国平均を上回った結果となりました。「数と式」「図形」「データの活用」については、基本的な計算の規則が理解できている、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件が理解できている、箱ひげ図から分布の特長を読み取ったり、データの傾向を捉えたりすることができているなど基礎部分定着している生徒が多いので、それらを活用し、その意味を読み取ったり説明をしたりする機会を増やしていきたいと考えます。しかし、「関数」については「一次関数の変化の割合の意味を理解している」生徒の割合が全国平均を下回る結果となりました。今後、ドリルパーク等を活用し復習の機会を多くとりたいと考えます。また、数学全体の傾向として、習熟度の極端な二極化傾向はみられないものの、引き続き、各自の習熟度に応じた丁寧な指導を心がけていきたいと考えます。

○【理科：学習状況】「粒子」「地球」を柱とする領域については、三重県の平均正答率をやや上回りましたが、「エネルギー」・「生命」を柱とする領域を合わせた4領域全てで、全国平均を下回った結果となりました。全体的に「知識・技能」に関しては、ほぼ同等の結果となったのですが、「思考・判断・表現」に関して3ポイント以上低くなっています。問題別にみると「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる」「課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身についている」「分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかみる」の問いに対し、6ポイント以上低い結果となりました。これは、本校の規模において、実験の中止などコロナ感染症拡大防止の策を行った結果、実験及び考察、観察等が十分に行えなかったことが大きく関わっているのではないかと推測します。この結果を踏まえ、感染症拡大防止の対策を取りながら、できる範囲での実験・観察を行っていきたいと考えます。

### (3)「生徒質問紙」から見られる本校の特徴

「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせて、全国平均より高い項目は、全45項目中30項目あります。これは、全体の約67%に当たります。

※値が「高い」項目（◎：非常に高い、○：高い）

◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

◎朝食を毎日食べている。

◎毎日、同じくらいの時間に起きている。

◎友達と協力するのは楽しい。

◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

○学校に行くのは楽しい。

○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。

○人が困っているときは、進んで助ける。

○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。

○道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだ。

※値が「低い」項目（▲：低い、●：非常に低い）

▲地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

▲地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。

●新聞を読んでいる。

※全国平均との比較で、値が「高い」項目（◎：非常に高い、○高い）

◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

◎今住んでいる地域の行事に参加している。

◎1、2年の授業で、コンピュータなどのICT機器を使用した。

◎学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。

◎学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげた。

◎学級生活をよりよくするために学活で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めた。

○学校に行くのは楽しい。

○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。

○学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

※全国平均との比較で、値が「低い」項目（▲：低い、●：非常に低い）

▲携帯・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。

▲学校で自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている。

▲学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている。

●（非常に低い項目は、ありませんでした。）



「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という考えを持ち、「友達と協力するのは楽しい」など、生徒相互の関係性も良好で「学校は楽しい」と感じている生徒が多いようです。また、家庭での生活面では、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」と回答した生徒が多く、「基本的な生活習慣」の確立に向けて、ご家庭の協力のおかげもあり成果が出たのだと感じています。引き続き、携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、ご協力をお願いいたします。今後も、ICT教育の推進と、生徒一人ひとりの個性を認め、困りごとや不安に寄り添える教師集団であり、生徒一人ひとりを大切にする教育を進めて行きます。